SMETAとは？

SMETA（Sedex Members Ethical Trade Audit）とは
Sedexの会員企業や監査会社から構成されるSedexステークホルダーフォーラム（SSF）が、社会・環境に関する監査に関するベストプラクティスを集約して開発した監査スキームをSMETAと呼んでいます。これは国際的に認識があり広く受け入れられている監査手法のひとつで、異なる業界に適用することができます。

SMETAは、サプライヤーに対する重複する監査を軽減する目的で開発されました。Sedex会員はSMETA監査を受審し、その監査結果をSedexが提供する電子プラットホームを通じて、他の会員と共有することができます。

現在グローバルで230,000以上のSMETA監査が実施され、Sedexの電子プラットフォーム上には79,000以上のSMETA監査のデータが登録されています。

© CRT-Japan

SMETA監査の内容と特徴

- SMETAは下記の4つの資料で構成されています。
  SMETA Best Practice Guidance（SBPG）：SMETA監査の計画・実施ステップ
  SMETA Measurement Criteria（SMC）：SMETA監査項目に関する説明書
  SMETA Report: 監査報告書フォーマット
  SMETA Correct Action Plan Report: 是正報告書フォーマット

- SMETA監査とはSMETA Best Practice GuidanceとSMETA Measurement Criteriaに沿って行われる監査を指します。
- 下記の２つから監査スコープを選択できます。
  ベーシックスコープ（2領域）：労働基準、安全衛生、その他
  フルスコープ（4領域）：労働基準、安全衛生、環境、ビジネス倫理
- 監査の採用基準は、ETI Base Code（国際労働機関の労働慣行のモデル規範）もしくは現地法のいずれか厳しい基準を採用して、監査項目を評価します。
- 監査結果および是正措置計画書は各々SMETA ReportとSMETA Correct Action Plan Reportで発行されます。
- SMETA監査は、認証書は発行されません。
- SMETA監査を依頼する場合は、SedexのAffiliate Audit Companiesに入っている監査会社に直接お問い合わせください。
  https://www.sedexglobal.com/join-sedex/auditor/

© CRT-Japan

SMETA監査の内容と特徴

- Sedexが認証した監査機関のみがSMETA監査を行うことができます。また、A/AB会員の企業も自社工場にSMETA監査を実施することができます。

- SMETA監査を実施する監査機関は、SMETAの使用料の支払いが求められます。また、監査機関が非*SMETA*監査をプラットフォームに登録する場合は、アップロード費の支払いが求められます。この料金は監査機関に直接請求されます。A/AB会員はSMETAの使用料とアップロード費の支払いは求められません。

※補足情報

- *Sedex*会員に*SMETA*監査を実施する場合は、SMETAの使用料（*50*ポンド）を支払う必要があります。
- *Sedex*非会員に*SMETA*監査を実施する場合は、SMETAの使用料（*150*ポンド）を支払う必要があります。
- *Sedex*会員のアカウントに非*SMETA*監査を登録する場合は、アップロード費（*200*ポンド）を支払う必要があります。

© CRT-Japan